

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）日・英国共同研究
（神経科学に基づく認知症研究分野） 事後評価
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	ALS-FTD におけるシナプス病理
研究開発代表者	岡部 繁男
代表機関	東京大学

○評価委員会コメント

成果・評価される点：

- 技術的課題を CLEM 等の代替手法で克服し、ヒト死後脳を用いたシナプトーム・マッピング及び電子顕微鏡解析技術を確立するとともに、ALS-FTD におけるシナプス病理解析の基盤を構築した。
- 日・英国が脳組織・解析技術・知見を共有することで、比較解析が可能な共同研究体制を構築し、今後の共同研究や共同論文につながる成果を挙げた。
- 困難なヒト死後脳解析に挑戦し、今後の病態解明や新たな診断法・治療標的の開発につながる発展性の高い成果が期待される。

課題・改善点：

- Expansion Microscopy のヒト死後脳への適用は未達成であり、技術の最適化と有効性の検証が望まれる。
- 解析対象症例数や脳バンク資源には制約があることから、サンプル数の拡充や国内外との連携強化により研究基盤を一層充実させることが期待される。